

年 組 名前：

「夢食堂」のイメージ

購入 100円 券

客

飲食店

来店した子ども

※子どもを対象は店舗によって異なる

## 客が食券購入し寄付 「夢食堂」全国に拡大

# 200円で子どもを笑顔に

福岡市早良区の居酒屋「博多ほたる西新店」。入り口のホワイトボードには、客が購入した「夢チケット」約50枚が掲示され、店に来た小学生以下の子どもが食券として利用できる。メニューは日替わりで、ハンバーグやギョーザなど。毎月50人ほどが利用し、特に週末や夕方が多い。

農家の廃棄予定の食材を活用し、子どもを支援できることから、昨年10月に始めた。

来店した子どもや親からは「おなががいっぱいになった」「本当に助かった」と声が上がっているという。田中隆成店長(25)は「親が作るのも大変な日もあると思う。少しでも貢献できるなら」と話す。

国の調査によると、中間的な所得の半分に満たない家庭で暮らす18歳未満の子どもは13・5%。この数字に危機感を覚えたのが千葉県の一般社団法人「ロングスプーン協会」の橋本展行代表(55)だった。

子ども食堂は、地域住民やボランティアらが、寄付された食材を活用し運営する。そのため場所の確保が必要で、月数回の開催にとどまることが多い。橋本代表は毎日食事ができる環境を整備したいと考え、夢食堂の仕組みを思い

(2022年9月8日付 山梨日日新聞 20面)

問1

「夢食堂」プロジェクトとは、どのような取り組みのことでしょうか。

.....

.....

問2

食堂では、農家からの食材を活用する以外に、どのような食材を活用し運営していますか。

.....

問3

あなたは、この活動について、どのように思いますか。

.....

.....

ついた。昨年5月に活動を始め、26都道府県の約90店舗に広がった。

橋本代表は、コンビニ最大手と同規模の2万店まで拡大を目指す。「子どもが安心して食べられる環境をつくりたい」と今後を言及する。